

## アマチュア無線の今

JJ1SXA/池

アマチュア無線の様変わり、日進月歩、年寄りにはついていけないと思うのは、私ばかりでは無いと思いますが、いかがでしょう？

忘年会で、真空管のオークションがありますが、真空管のリグを自作しなければ免許を受けられなかった OM さんたちも多い中、所望する局は少ないようです、かつては「明治は遠くなりけり」でしたが、今や、「昭和は遠くなりけり」です。

今は、RTTY、SSTV、PSK 等の他、VoIP 無線の Wires、echolink、eQSO 等や、D-Star、APRS、WSJT などなど、いろいろな通信方式が出てきています。

アマチュア無線の原点とは？となると、真空管式のリグを自作し、縦振れ電鍵でトントー、トントーとやるあたりまで溯ることになるのでしょうか？…今、私の無線ライフは 240 での運用と、50MHzCW での国内コンテストだけと言っても良いような状態ですが、コンテストも、zLOG、CTESTWIN 等のコンテスト用ロギングソフトで、PC を駆使、タッチ一発というケースがほとんどになって、私のように、紙ログ手書き、エレキー手打ちというスタイルは少数派になってきました、ログ提出も Cabrillo 形式が求められています。

DXCC を追いかけている局も、従来は、ペディションの QSL カード取得には、SASE と、切手、IRC (international reply coupon…国際返信切手券)、GS (グリーンスタンプ → 1ドル紙幣) などの有価証券を少し多めに入れ、更に、返信率を良くしようと綺麗な絵葉書などを同封してと言ったスタイルで、郵便事情の悪い(郵便事故率が高い)国へ送る時は、中身を悟られ無いよう、封筒にコールサインなどは書かず、普通のビジネス文書に見せかけるような工夫をこらす等、涙ぐましい努力をしたものですが…

今は、「OQRS」(Online QSL Request Service)という便利なシステムができ、CLUBLOG でサーチ、「PAYPAL」で支払うだけと、簡単かつ安全な方法に変わりました、また、DXCC 申請のために、昔は、コンファームしたカードを、アメリカまで送らなければいけませんでした、現在は、JARL がフィールドチェック(QSL カードの所持証明)と共に代行申請まで行っていますので、こちらも大変簡便になっています。

更に、ARRL の LOGBOOK (LoTW…Logbook of the world)を使えば、QSL カード取得の必要も無く DXCC 申請ができるようになり、大変便利になりました、まあ、折角の珍カントリーなら QSL カードは欲しいでしょうが…おっと今は、カントリーでは無く、エンティティでした、それと、eQSL.cc (The Electronic QSL card center)に登録すれば、カード交換もオンラインで簡単にできます、また DXer なら当たり前の QRZ.com の登録と共に、リグコントロールソフト HRD と付属の HRDLog.book をインストール、HRDLog.net に登録して自分のブログや HP 等にほぼリアルタイムで現況(運用周波数・モード等と **ON AIR** マーク点灯)を表示させている局もいます。

多彩なサービスの出現に目を丸くしながら、恐る恐る少しずつ試しています hi